

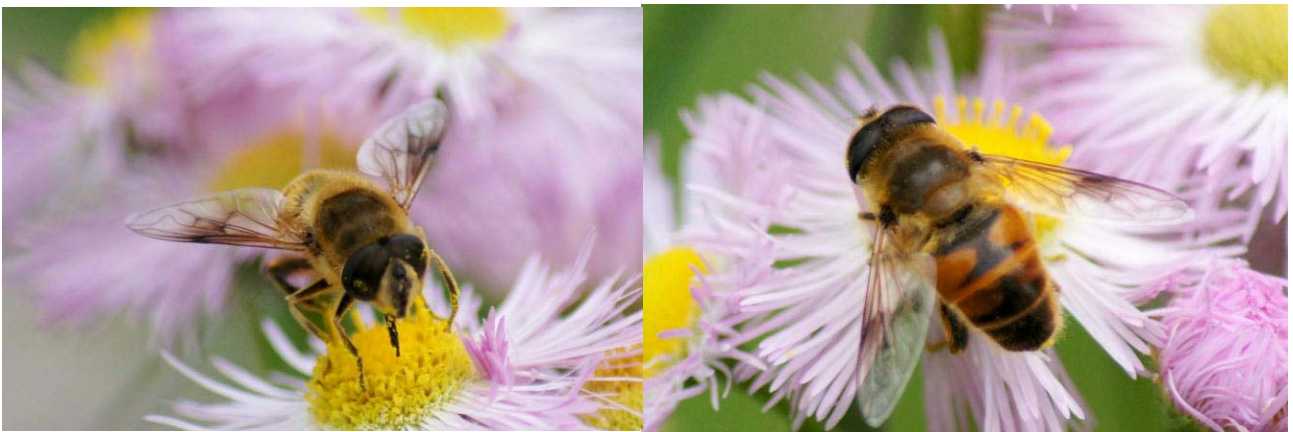
牛久：学校周辺に見る自然

第8号 ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小）

2013年6月6日発行

＜ 春の生きもの観察 ～みずべ公園 ④草花に来る昆虫たち ＞

ひたち野うしく小4年生とのみずべ公園、春の生きもの観察、今回は花を咲かせていた草と、みつや花粉、葉を食べに来ていた昆虫たちの紹介です。



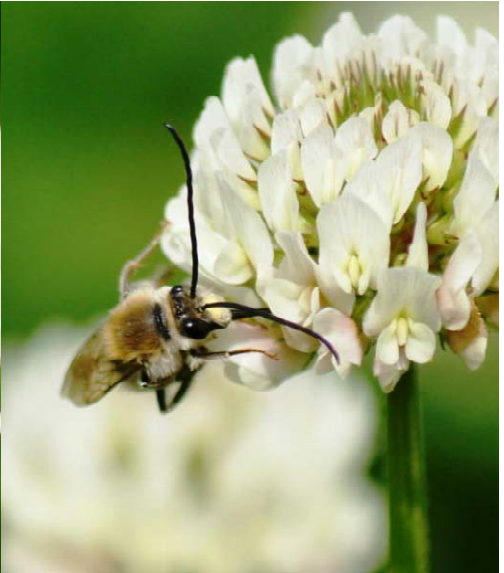
口先をのぼし、ハルジオンのみつをなめるナミハナアブのオス。
ハチに似ているが、はねが2枚、複眼が大きく触角が短い、腰がくびれてないなどから見分けられる。

まずは、おなじみのハルジオンに来ていたナミハナアブです。口先をのぼして、みつをなめたり、花粉を食べたりしていましたね。ハナアブがよく訪れる花には、ハルジオンのように上を向いた平たい形の花が多いようです。姿はハチに似ていますが、花にもぐり込む習性はなく、あしの力もあまり強くはないためといわれています。



ハルジオンのみつを吸うベニシジミ（左）と、花粉を食べるコアオハナムグリ（右）。

ハルジオンには、他にもチョウや甲虫類など、いろいろな昆虫がみつや花粉を求めてやってきます。よく探すと、それらの虫を捕まえようと、クモが花の下で待ちぶせしていることもあります。この日は、ベニシジミとコアオハナムグリが見られました。



シロツメクサのみつを吸うセイヨウミツバチ（左）とシロスジヒゲナガハナバチ（右）。セイヨウミツバチの口には、ものをかむ大あごとみつを吸う長い口吻がある（左下）。

シロツメクサには、ハナバチの仲間がよく来ます。花の一つひとつをよく見ると、これが豆の仲間であることが分かりますね。セイヨウミツバチとシロスジヒゲナガハナバチのオスが、口吻（こうふん）をのばしてみつを吸っていました。ハチの仲間は皆、ものをかむ大あごが発達していますが、ハナバチの仲間のように、その他にみつを吸う口も持っているものもいて、特にミツバチでは長く発達しています。仲間のムラサキツメクサ（アカツメクサ）には、シロスジヒゲナガハナバチのメスが来ていました。オスと違って、ちっともヒゲ長じゃないですね。



ちっともヒゲ長じゃないシロスジヒゲナガハナバチのメス（左）と、シロツメクサなどの根から栄養を吸いとって

生きているヤセウツボ（右）。地中海沿岸からやってきた植物で、外来生物法で要注意外来生物に指定されている。



ちっともヒゲ長じゃないシロスジヒゲナガハナバチのメス（左）と、シロツメクサなどの根から栄養を吸いとって生きているヤセウツボ（右）。地中海沿岸からやってきた植物で、外来生物法で要注意外来生物に指定されている。



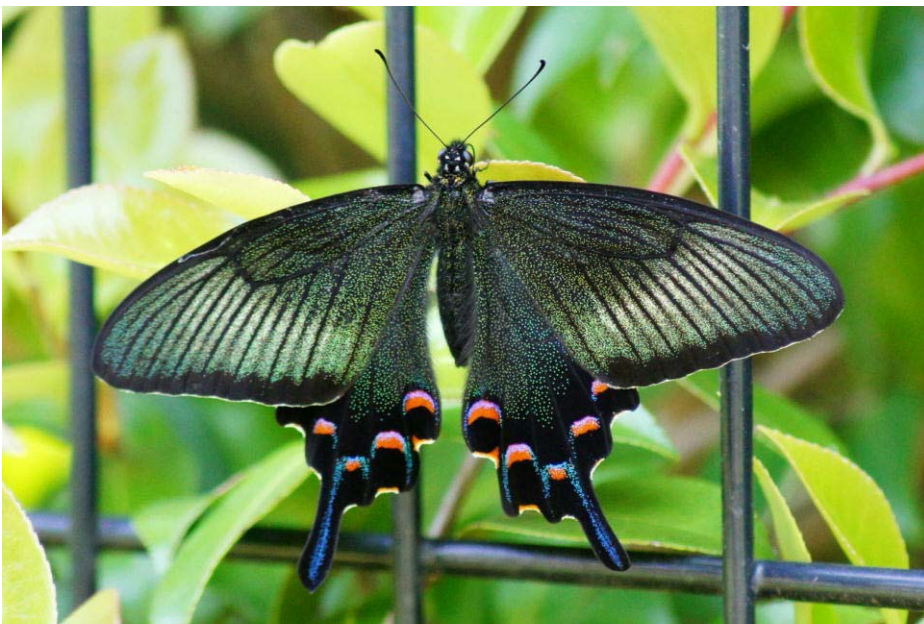
アザミに似ているキツネアザミ（左）と、茎も葉も毛でざらざらのコウゾリナ（右）。

他に咲いている草の花では、**キツネアザミ**と**コウゾリナ**が多く見られました。が、5/16の3、4組さんたちの日には、一面草刈りがすんでいて、草の花はほとんど見られませんでした。キツネアザミは見た目はアザミにそっくりですが、アザミと違って葉はやわらかくトゲもありません。それで「キツネにつままれたよう・・・」ということでこの名がついたようです。はるか昔、農耕とともに中国や朝鮮半島からやってきたといわれています。コウゾリナは葉や茎にかたい毛がたくさんあり、さわるとザラザラするので「剃刀名（かみそりな）」とよばれたことからついた名だそうです。



左は一昨年の9/6の写真ですが、皆さんと葉の香りをかいだ**ハッカ**です。「ミントみたい！」と言っていましたが、同じシソ科の仲間です。シソ科はさわってみるとみな茎が四角で、葉をもむと香りのするものが多いようです。ミントの他に、セージ、ローズマリー、タイムなどのハーブもやはりシソ科です。夏から秋にかけて花が咲くと、みつを吸いにハナバチやチョウの仲間がたくさんやってきます。

葉の香りがさわやかなハッカ 2011.9.6



ギシギシの葉を食べるコガタルリハムシ(左上), ウシハコベのみつをなめるホソヒラタアブ(右上), ナガミヒナゲシのみつを吸うカラスアゲハ(右下), 左は同じカラスアゲハがはねを開いて休けい中。下左はヒシバッタ。小さくても成虫。せいぢゆう 下右はバッタの仲間のような虫。はねがのびていないので、成虫と区別できます。

最後に名前だけですが、かり残された草花に来ていた虫たちを紹介しましょう。【理科支援員：宮内】

